Nephila clavata は第二螺旋附着體型に於て位置決定は第四歩脚をもつてする爲體の廻轉はない。*Araneus* 屬に於ては本文の如く一般に 90° の回轉をなすものゝ如く，Tetragnatha ; Meta 屬等のアシナガグモ亞科は內側第一歩脚をもつて位置決定をなす爲 180° の廻轉を行ふ。其他各種毎細部に於ては興味ある變化を示し食指の動かざるを得ない有樣である。夫等も發表の機を得たいと思つてゐる。

正　誤　表

頁	行	誤	正
		Vol. III	No. 3 に於て
109	5	下半徑 / 上半徑	上半徑 / 下半徑
〃	13	歩　は	歩脚は
108	7	8 .	85.
113	5	輻絲 d	輻絲 pd
〃	9	fp	ep
〃	11	gd	qd
〃	11, 12, 13	L	∟
114	1	Lpag	∟ paq
〃	5	d 點	c 點
〃	6	pd	pc
〃	15	e,f'	e,f,
114	18	Lapb	∠apb
117	8?	18.09 / 18.04	11.09 / 18.04
〃	〃	0.595dm	0.6dm
〃	16	直互	相互
〃	24	第七回	第七圖
〃	25	に dr	dr
118	表の最後	0.421dm	0.4dm
		Vol. IV	No. 1 に於て
6	終より 4	XXXIX	XXXIX
7	第十六圖	圖を左へ90°廻轉さす	
12	21	90	90°
11	第十八圖	圖を左へ30°廻轉さす	

カネコトタテグモ諏訪郡に産す

昨年十一月住みなれた上諏訪町でカネコトタテグモを見出して驚いた。この意義は本邦産のトタテグモ仲間では最も對寒性の強い事を意味する事にある。今年等は湖は十二月下旬から三月上旬まで凍りつめてゐた事を知られたい。

當時蜘蛛は多眠の準備に忙殺され，管口外は若蛛に於ては多量の土塊が搬出されてあつた。場所は南向きの傾斜面，老杉の根元石垣の間等であつた。

（小島敏宏　1940. 3. 10）